

# 中学生硬式野球団体の研究－スポーツの制度化の概念に着目して－

大林遥介 （ 奈良教育大学 ）

## 1. 目的

2007年から2017年で、日本の中学校部活動の軟式野球人口は、30万人から17万に減少したが、中学生の硬式野球人口は5万人弱のままで減少していない。本研究では、日本中学硬式野球協議会に加盟している5団体（ボーイズリーグ、リトルシニア、ポニーリーグ、ヤングリーグ、フレッシュリーグ）を対象に、スポーツ組織の制度化の観点から、各団体の特徴を明らかにすることを目的とした。

## 2. 研究方法

スポーツを「身体的技量の競争を組織している制度」（菊,1993）とし、制度論の観点から分析項目として1) スポーツ・シンボル①スポーツ・信条②スポーツ・ルール、2) スポーツ・地位、3) スポーツ・教育の3つの局面を設定し、中学生硬式野球5団体の分析を行った。

## 3. 結果と考察

### 1) 中学生硬式野球団体（5団体）について

ボーイズリーグ（1970年設立）は、全国に613チームあり、5団体で唯一公益法人化されている。リトルシニア（1972年設立）は、全国に549チームあり、ボーイズリーグと並び日本最大規模の団体である。ポニーリーグは、本部がアメリカにあり、日本で1975年に設立され、全国に97チームあり、リエントリー制度など独自のルールがある。ヤングリーグ（1993年設立）は、177チームあり、指導者ライセンス制度を導入してい

る。フレッシュリーグ（1986年設立）は、九州を地盤に九州のみの32チームで活動している。

### 2) 制度化の特徴の整理

設定した分析項目に5団体の該当する特徴を当てはめて、整理し、比較検討を行なった（表1）。

### 3) 各団体の相違点と共通点

5団体は共通して野球を通して社会人としての基礎の育成を目指しており、心身ともに成長段階にある中学生を預かっていることを強く意識していることが考えられた。また、各団体は一定の社会的地位（法人格）をもって活動していることが分かった。各団体の相違点として、規模の小さい団体は独自の制度や活動を行うことによって他団体との差別化を図っていた。

## 4. 結論

それぞれの団体が制度化の諸局面において、様々な特徴を有していることが明らかになった。このように、民間団体として、各団体が特徴を持って組織化されていることが、競技人口を維持できている一要因であると考えられる。

### 〈参考文献〉

- 1) 菊幸一（1993）『近代プロ・スポーツの歴史社会学-日本プロ野球の成立を中心に-』不昧堂出版。
- 2) 佐々木肇（2020）「少年野球団体の成立経緯と制度化の検討」コミュニティ福祉学科研究科紀要, 18, 15-26.

表1. 5団体の比較

	スポーツ・シンボル		スポーツ・地位	スポーツ・教育
	スポーツ・信条	スポーツ・ルール		
ボーイズリーグ	野球を通して社会人としての基礎の養成と少年の健全育成	—	公益財団法人	全国一斉清掃（ボランティア）活動
リトルシニア	野球の指導を通して国際的スポーツマンとしての身体と精神の涵養	高校野球に準じた道具の規定	一般財団法人	—
ポニーリーグ	野球を通してスポーツマンシップと国際センスを持った健全な社会人の育成	リエントリー制度、リーグ戦、複数チーム編成	一般社団法人	イエローカードの導入
ヤングリーグ	スポーツを愛する青少年への心身の鍛錬の機会の提供 指導者の育成、青少年の健全育成とスポーツの振興	指導者ライセンス制度	一般社団法人	独自の指導者講習会
フレッシュリーグ	野球を通して郷土を愛する健全な社会人の育成	DH 制の導入	—	—